

KiKiの広場

2021年 3月 1日
cafe NO.125
KiKi



2月もジェットコースターのようなお天気で、寒暖差の激しい月でした。暖かい日差しにほっとしたり、思いもよらない雪に戸惑ったり逆に子どものように嬉しかったりと、なんとも落ち着かない忙しい月でした。さて3月は、どんな月になるのでしょうか。3月の別名は「弥生」。「弥」はいよいよ・ますます、「生」は草木が芽吹くことを意味しているそうです。確かに庭を見ると、ユリの芽が土から顔を出したり、紫陽花や牡丹などの枝に芽がつき始めています。自然は正直だなあとつくづく思います。春の訪れは、やはり嬉しいものです。東日本大震災から10年、まだまだ辛い思いをしている方がたくさんおられると思います。コロナウィルス関連も含めて、苦しい思い悲しい思い辛い思いの元に、真っ先に春が届くことを願っています。

3月の予定

休館日	9(火)
定休日	毎土・日・月曜日



「今月のケーキ」…「桜モンブラン」 350円

宇治抹茶スポンジの上に、桜の葉入りホイップクリームを乗せ、ホワイトチョコレートと白あんを合わせた桜色クリームで包んでいます。トップには塩漬桜花が飾られ、この季節ならではの可愛いケーキです。

今月のお気に入り…「春の訪れを感じる絵本」

～「ワニぼうのゆきだるま」「ドーナツやさんのおてつだい」「ランドセルがやってきた」「はるのやまはざわざわ」などなど



今年雪だるまを作った子どもたちも多かったのではないのでしょうか。「ワニぼうのゆきだるま」にも、いろんな形の雪だるまがいっぱい出てきます。寄り添う雪だるまたちを見ると、温かい気持ちになります。待ち遠しい春への想いも伝わってきます。「ドーナツやさんのおてつだい」は、お話も絵もとっても可愛くて楽しい絵本です。毎年春になる少し前に、森からドーナツ100個持ってくるという手紙が届くので、困りながらも子どもたちと一生懸命作るポルカさん。色んなドーナツが本当に100個描かれています。とにかくドーナツが美味しそう。さていったい誰からの手紙なのでしょう？



今月の本棚…「読み比べてみたい絵本 その2」

～「うらしまたろう」「浦島太郎」「はなさかしい」「花さかしい」「花じんま」「うさぎとかめ」「はだかの王さま」などなど～



今回は、「うらしまたろう」を3冊。うらしまたろうと聞いて、まず知らない人はいないのではないのでしょうか。各地に残された浦島説話ですが、一番古く文献に残っているのは、「万葉集」だそうです。その後、ラフカディオ・ハーンや島崎藤村・森鷗外・太宰治なども、様々な浦島を書き残しています。なぜ乙姫は玉手箱を渡したのか、開けてはいけないと言われていたのになぜ太郎は開けてしまったのか、一気に年老いてしまう結末、「めでたしめでたし」とはならない「うらしまたろう」のお話には、多くの人が心惹かれるのはなぜなのでしょう？



時田史郎&秋野不矩、松谷みよ子&いわさきちひろの本は、お話もよく似ていて読みやすく、どちらも絵が美しいです。中谷宇吉郎の「浦島太郎」は、藤城清治の影絵がとても幻想的です。初版は昭和26年です。我が子を寝かしつける為に語っていたという文章も面白く、途中であくびが出たら目的が果たせたことになるかと書かれています。



ほっとスライク

胡蝶蘭その11…5度咲きなるか!?



2016年の秋にいただいた初代胡蝶蘭が、5回目の蕾をつけました。2代目からは、新しい根が顔を出しました。4回目が咲き終わってから、初代も2代目も3代目もしばらく枝と葉だけの状態でしたが、ようやく新しい芽や根が出てきました。乾いたら水やりを繰り返していましたが、枯れた葉もあつたりしてもう難しいかなと思っていた矢先でした。蕾がだんだん膨らみ、根が少しずつ伸びていく姿を見るのはとても楽しくて嬉しいです。生き物たちのおかげで、明るい気持ちで新年度を迎えることができそうです。

